



A H J I K A N R E P O R T

第53期 報告書

2016年4月1日 ➡ 2017年3月31日



株主のみなさまへ

増収増益の決算をご報告申し上げます

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第53期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の連結会計年度が終了いたしましたので、ここに営業の状況および決算などについてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益および雇用・所得環境に緩やかな回復基調が見られたものの、中国経済をはじめとするアジア新興国や資源国の景気減速懸念に加え、英国のEU離脱問題や米国新政権の政策動向により金融資本市場が不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、食品の安全・安心への関心が高まる中で、円高の影響により外貨建輸入品価格は低下したものの、個人消費に足踏みがみられるなど、一定の厳しさを残した経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、第10次中期経営計画の2年目をスタートさせ、各施策に取り組んでまいりました。具体的には、第一に「営業基盤の拡充と市場開拓」、第二に「商品の研究開発と技術開発およびマーケティング力の強化」、第三に「利益構造の改革」、第四に「全社供給体制の強化と効率化」、第五に「経営効率・経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

その結果、厚焼玉子を始めとする玉子焼類に加え、野菜加工品類、自社企画ブランド品の需要を拡大することができました。

他方、海外関係会社の業績も好調に推移したほか、米国、豪州、東南アジア諸国などへの輸出売上も伸長しました。また、通信販売チャネルを中心とした「ごぼう茶」ならびに関連製品につきましては、品揃えの充実を図るとともに、広報・広告宣伝をはじめとした販売促進活動の強化により需要が増加しました。

以上のことから、売上高全体では、前連結会計年度に比べ



株式会社 あじかん
代表取締役社長
あしかが けいいち
足利 恵一

2.8%増加の40,935百万円となりました。

一方、製造原価におきましては、自社製造製品の売上高拡大により、高い生産稼働率を維持することができました。また、副材料・補助材料の仕入価格上昇や賃金引上げなどによる労務費の上昇はありましたが、鶏卵をはじめ、椎茸、干鰯、魚肉すり身などの主要原材料価格が前連結会計年度以下の水準で推移したことに加え、省エネ活動や生産技術力向上による歩留まり率改善などの原価低減努力により、製造原価率は前連結会計年度以下に抑制することができました。

これらの結果、戦略的に増加させた販売管理費を吸収して、営業利益は前連結会計年度に比べ253.3%増加の1,629百万円となりました。また、為替予約のデリバティブが時価評価益に転じたことなどから、経常利益は、前連結会計年度に比べ306.6%増加の1,779百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に比べ370.4%増加の1,101百万円となりました。

当社は引き続き、食品メーカーとしての社会的責任を全うし、目標の確実な実現に向けて全社をあげて取り組む所存でありますので、株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長 足利 恵一

Q 主要原材料の市況変動リスクは？

A 当社グループが生産する製品は、鶏卵、干瓢、椎茸、ごぼう、魚肉すり身を主原料としており、契約購買や分散調達により安定した数量の確保と特定の調達先への集中の回避を図っております。しかし、これらの原料は、作況、自然災害や大規模事故等の産地や生産者への影響、相場の変動、漁獲量制限、調達先の経済状況などによって、調達価格や調達量に影響を受ける可能性があります。

また、調味料、食用油といった副原料や包装資材などの原材料全般にわたって、需給動向や原油価格、穀物価格、為替などにより調達価格が変動し、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

Q 為替相場の変動による影響は？

A 当社の取扱品には海外からの輸入品が含まれており、為替相場の変動によるリスクをヘッジする目的で、為替予約による対策を講じております。しかしながら、リスクヘッジにより為替相場変動の影響を緩和することは可能であっても、影響をすべて排除することは不可能であり、当社の経営成績および財政状態に影響を与える可能性があります。

Q 安全性への取り組みは？

A 当社グループでは、製造工程に導入しております「品質保証システム (ISO9001)」や「衛生管理システム (HACCP)」に加え、「食品安全マネジメントシステム (ISO22000)」を構築し対応してまいりました。

また、起源原料まで溯って追査できるトレーサビリティの仕組みを整備するほか、当連結会計年度には、フードディフェンス面を強化する目的で、食品安全のための規格である食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」の認証を取得し、品質管理については万全な体制で臨んでおります。

Q 利益配分に関する考え方は？

A 当社では、株主のみなさまへ適切な利益還元を行うことを経営の重要課題と位置付けており、安定的な利益を確保し、事業規模の拡大と収益性向上の原資となる内部留保の充実に努めるとともに、配当につきましては、安定的かつ継続的に行う前提で、配当性向や配当利回りなどを指標とし、経営成績を勘案した成果配分とすることを基本方針としております。

当期の期末配当金につきましては、経営成績に鑑み、1株当たり12円の普通配当に加え、特別配当といたしまして6円を増配し、1株当たり18円とさせていただきます。

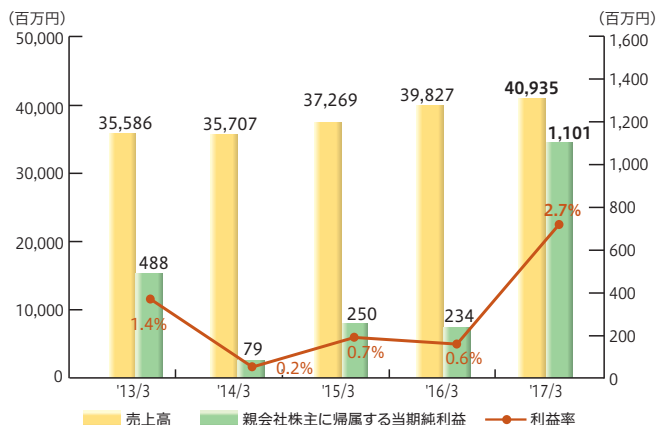
内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、さらには事業拡大戦略のために有効投資を行ってまいりたいと考えております。

Q & A

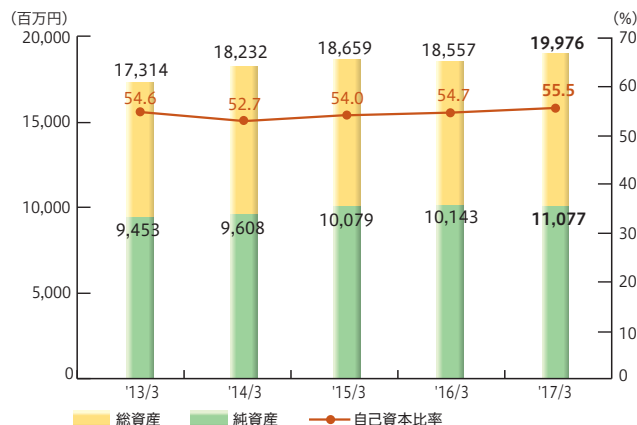
あじかん @ a glance

業績の推移(連結)

売上高・親会社株主に帰属する当期純利益／利益率



総資産・純資産／自己資本比率



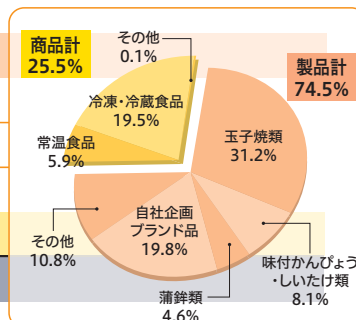
製商品別売上高(連結)

「あじかんグループ」は、鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売を主な事業としております。

(単位:百万円)

区分	'16/3	構成比	'17/3	構成比	前連結会計年度比	
玉子焼類	12,476	31.3%	12,792	31.2%	102.5%	厚焼玉子
味付かんぴょう・しいたけ類	3,171	8.0%	3,327	8.1%	104.9%	れあとろたまご
蒲鉾類	1,923	4.8%	1,893	4.6%	98.5%	味付椎茸花形
自社企画ブランド品	7,841	19.7%	8,107	19.8%	103.4%	味付人参花形
その他	3,746	9.4%	4,378	10.8%	116.9%	うまい棒がり
製品計	29,159	73.2%	30,499	74.5%	104.6%	
常温食品	2,396	6.0%	2,431	5.9%	101.5%	エビフライ
冷凍・冷蔵食品	8,252	20.7%	7,982	19.5%	96.7%	たいやき
その他	19	0.1%	22	0.1%	113.1%	さば味噌煮
商品計	10,668	26.8%	10,436	25.5%	97.8%	
合計	39,827	100.0%	40,935	100.0%	102.8%	

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



チルド物流を根幹においた あじかんネットワーク

国内に協力工場を含め5つある工場で、徹底した品質管理のもとに生産された製品は、全国へ張り巡らされたチルド主体の物流網を通じて、全国36営業所から直接、お客さまにお届けいたしております。



本社・広島工場

'78年稼働
主要生産品目／玉子焼・味付品
主な供給エリア／中国・四国地区

鳥栖工場

'82年稼働
主要生産品目／
玉子焼・かに風味蒲鉾・おぼろ
主な供給エリア／九州地区

宮崎営業所



徳島営業所



籠谷工場(協力工場)
'92年稼働
主要生産品目／玉子焼
主な供給エリア／
近畿・東海・中京地区

東京営業所



千葉営業所

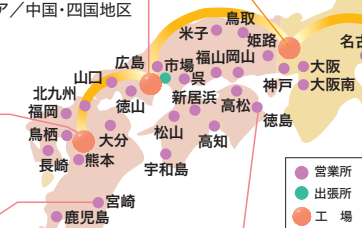


守谷工場

'91年稼働
主要生産品目／玉子焼・蒸煮玉子加工品
主な供給エリア／北海道・東北・関東地区

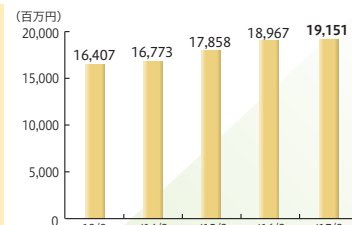
静岡工場

'98年稼働
主要生産品目／玉子焼・かに風味蒲鉾
主な供給エリア／関東・東海・中京地区



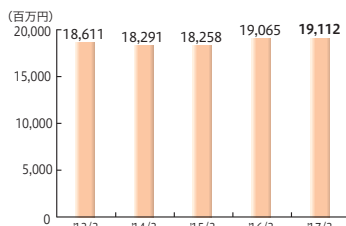
東日本エリア売上高(連結)

新製品やリニューアル品を軸にスーパーマーケットやコンビニエンスストアに向けての取り組みを強化するとともに、札幌や甲信越、北陸地方などでの新規開拓に加え、2016年12月に千葉営業所を開設し、関東エリアでの販売体制を強化した結果、売上高は19,151百万円(前連結会計年度比1.0%増加)となりました。



西日本エリア売上高(連結)

中食市場への深耕開拓や沖縄地区での新規開拓を進めるとともに、各種イベントに合わせた販売活動などを積極的に行った結果、売上高は19,112百万円(前連結会計年度比0.2%増加)となりました。



あじかんの流通経路

当社は業務用食品のほか、一部市販用の食品を取り扱っております。

当社では原材料を加工し、製品化して販売するとともに、商品を仕入れての販売も行っております。

また、海外においても関係会社からの「海外生産品」や

海外委託工場で生産する「海外調達品」も仕入れております。

近年は、中国をはじめ、東南アジア諸国や、北米、豪州市場への販売強化にも取り組んでいます。



History あじかんのあゆみ

当社の歴史は、創業者である 足利政春が、
1962年に広島市で個人創業したことから始まります。
以来、地歩を固めながら確実に成長してまいりました。



愛康食品(青島)有限公司

つくば山崎農園産
あじかん焙煎ごぼう茶



千葉営業所を開設【12月】
FSSC22000認証取得【9月】
宮崎営業所を移転開設【11月】



東京営業所

ISO22000を取得【1月】
中国に「味堪(広州)餐飲管理有限公司」を設立【5月】
ごぼう茶の製造方法に関する特許を取得【12月】

香港に「味堪香港有限公司」を設立【9月】

(株)あじかんアグリファームを設立【4月】
1単元の株式数の変更(500株→100株)、創業50周年【10月】

「つくば山崎農園産あじかん焙煎ごぼう茶」発売【12月】

「東京営業所」を建て替え【5月】

中国に合弁会社「愛康食品(青島)有限公司」を設立【5月】

ISO14001認証取得【12月】

中国に「山東安吉丸食品有限公司」を設立【2月】

ISO9001認証取得【2月】

東証2部上場(広証廃止による移行上場)【3月】
1単位の株式数の変更(1,000株→500株)【8月】

静岡工場開設【4月】

1996【12月】大証2部上場

1990【12月】広島証券取引所へ株式上場(6日)
【12月】資本金を1,102百万円に増資

1984【8月】「厚焼玉子の製造方法」特許登録(初の特許)

1978【3月】商号を株式会社あじかんに変更
【6月】本社・広島工場を、広島市西区商工センター(現地)へ新築移転

1970【1月】商号を株式会社広島製玉に変更

1965【3月】資本金1百万円にて株式会社三栄製玉設立

1962【10月】広島市南区西蟹屋にて、創業者 足利政春が三栄製玉として個人創業

売上高
(百万円)

2017

2016

2015

2014

2013

2012

2010

2008

2005

2003

2002

2001

2000

1998

1996

1990

1984

1978

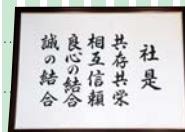
1970

1965

1962



山東安吉丸食品有限公司



創業当時の作業風景

'62 '63 '64 '65 '66 '67 '68 '69 '70 '71 '72 '73 '74 '75 '76 '77 '78 '79 '80 '81 '82 '83 '84 '85 '86 '87 '88 '89 '90 '91 '92 '93 '94 '95 '96 '97 '98 '99 '00 '01 '02 '03 '04 '05 '06 '07 '08 '09 '10 '11 '12 '13 '14 '15 '16 '17

2016-2017 Topics

広報・IR

■ 広島大学と包括的研究協力で「覚書」を締結

当社は2016年10月21日、広島大学生物圏科学研究科との包括的研究協力に関する「覚書」を締結いたしました。現在、地鶏・銘柄鶏の新しい付加価値創造に関する分野や、玉子製品の安全性に関する分野などで研究協力が行われています。

人材交流を通して産学連携を促進するとともに、食品分野における学術の発展、技術開発、ならびに産業振興に貢献することを目的としています。



■ 学習漫画『巻寿司のひみつ』が発行されました

当社は、巻寿司のさらなる普及を目的に、巻寿司啓蒙活動に取り組んでおります。

この度、株式会社学研プラスの小学生向け学習まんが「まんがでよくわかるシリーズ」から、『巻寿司のひみつ』が発行されました。「まんがでよくわかるシリーズ」は小学生向けに様々なテーマをわかりやすく紹介する学習教材シリーズです。

当書籍は、当社が創業50周年時に発行した『巻寿司のはなし』に続く、巻寿司の専門書となります。制作では、巻寿司に関する知識やノウハウなどを提供し、全面協力しており、小学生にまんがを楽しみながら巻寿司の魅力を知ってほしいという思いが込められております。

また、当書籍は中国語版も同時に発行しており中国広州市にある当社グループのアンテナショップでも配布いたします。

今後もさらに巻寿司の魅力を世界へ発信し続けてまいります。



移転開設

■ 「千葉営業所」を開設しました

当社は2016年12月8日、千葉県習志野市に36番目の営業所となる千葉営業所を開設し、2017年1月28日に開所式を執り行いました。

JR京葉線の新習志野駅から1km圏内に位置し、周辺には幕張メッセや国内最大級のイオン幕張新都心店などがあります。

未出店地域である千葉エリアへの出店により、販売エリアを拡大するとともに、地域のお客さまへよりきめ細かいサービスをご提供してまいります。



【名 称】千葉営業所
【住 所】〒275-0024 千葉県習志野市茜浜1-5-8
(TEL)047-408-3380 (FAX)047-408-3055

決算のご報告 [連結]

COMMENT

◆連結子会社の数

4社

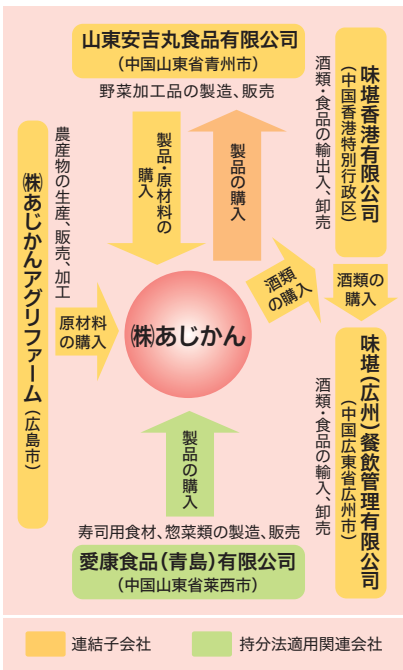
新規	0社
除外	0社

◆持分法適用関連会社の数

1社

新規	0社
除外	0社

企業集団の状況



貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2016年3月31日現在	2017年3月31日現在
流 動 資 産	9,600	10,009
現金及び預金	1,456	1,627
受取手形及び売掛金	4,781	4,902
商品及び製品	2,174	2,129
仕 掛 品	10	6
原材料及び貯蔵品	973	940
前 渡 金	12	15
前 払 費 用	74	72
繰延税金資産	138	128
そ の 他	21	197
貸倒引当金	▲43	▲11
固 定 資 産	8,957	9,967
有 形 固 定 資 産	6,867	8,086
建物及び構築物	1,893	1,883
機械装置及び運搬具	1,255	1,471
工具、器具及び備品	263	392
土 地	3,371	3,371
リ ー ス 資 産	75	64
建設仮勘定	7	904
無 形 固 定 資 産	129	97
ソフトウェア	64	42
リ ー ス 資 産	31	24
そ の 他	34	30
投資その他の資産	1,959	1,783
投資有価証券	918	934
長期前払費用	3	3
繰延税金資産	3	—
そ の 他	1,061	884
貸倒引当金	▲27	▲38
資 産 合 計	18,557	19,976

ポイント1 総資産

総資産は、前連結会計年度末に比べ1,419百万円増加の19,976百万円となりました。主な増加要因は、受取手形及び売掛金、現金及び預金、その他に含まれる為替予約の増加、千葉営業所の新設による増加に加え、新工場建設により、建設仮勘定が大幅に増加したことによるものです。

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2016年3月31日現在	2017年3月31日現在
流 動 負 債	7,127	7,950
支払手形及び買掛金	2,685	2,791
短 期 借 入 金	2,654	2,489
リ ー ス 債 務	59	50
未 払 金	642	924
未 払 法 人 税 等	108	478
未 払 費 用	365	393
賞 与 引 当 金	269	284
役員賞与引当金	31	35
そ の 他	310	503
固 定 負 債	1,286	948
長 期 借 入 金	561	442
リ ー ス 債 務	78	63
役員退職慰労引当金	390	253
退職給付に係る負債	205	113
資産除去債務	49	52
繰延税金負債	—	21
そ の 他	1	1
負 債 合 計	8,413	8,899
株 主 資 本	9,578	10,588
資 本 金	1,102	1,102
資 本 剰 余 金	1,098	1,098
利 益 剰 余 金	7,441	8,451
自 己 株 式	▲64	▲64
その他の包括利益累計額	565	489
その他有価証券評価差額金	285	298
繰延ヘッジ損益	▲20	10
為替換算調整勘定	369	222
退職給付に係る調整累計額	▲68	▲41
純 資 産 合 計	10,143	11,077
負債及び純資産合計	18,557	19,976

ポイント2 純資産

純資産は、為替換算調整勘定の減少、剰余金の配当による減少がありましたが、親会社株主に帰属する当期純利益の計上による増加要因により、前連結会計年度末に比べ933百万円増加し、11,077百万円となりました。この結果、自己資本比率は55.5%となりました。

損益計算書(連結)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2015年4月1日～ 2016年3月31日	2016年4月1日～ 2017年3月31日
・ 売 上 高	39,827	40,935
売 上 原 価	30,524	29,920
売 上 総 利 益	9,302	11,015
販売費及び一般管理費	8,841	9,385
営 業 利 益	461	1,629
営 業 外 収 益	405	241
営 業 外 費 用	429	91
経 常 利 益	437	1,779
特 別 利 益	-	6
特 別 損 失	5	151
税金等調整前当期純利益	432	1,633
法 人 税 等	198	532
当 期 純 利 益	234	1,101
親会社株主に帰属する当期純利益	234	1,101

ポイント3 売上高

季節的なイベントに合わせた販売活動の強化や主要都市での展示会開催、新製品開発やリニューアル品を軸とした新規開拓・深耕拡大への取り組み、新規エリアでの顧客開拓などに加え、千葉営業所の新設など、販売拠点の整備も進めてまいりました。また、海外販売の拡充、焙煎ごぼう茶の売上拡大など新規事業への取り組みも進展した結果、スーパーマーケットや総菜専門店を中心に、玉子焼類や野菜加工品類、自社企画ブランド品の販売が好調に推移し、売上高全体では、前連結会計年度に比べ2.8%増加の40,935百万円となりました。

キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2015年4月1日～ 2016年3月31日	2016年4月1日～ 2017年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,133	2,260
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 469	▲ 1,603
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 529	▲ 460
現金及び現金同等物の増減額	130	170
現金及び現金同等物の期首残高	1,316	1,446
現金及び現金同等物の期末残高	1,446	1,617

ポイント4 営業利益

主要原材料価格が全連結会計年度以下の水準で推移したことや、省エネ、歩留まり改善などの原価低減活動が奏功。加えて、為替が前期比円高で推移したことにより、外貨建て製商品の仕入れコストも低減できました。また、販売利益面においても、主力製品に加え、焙煎ごぼう茶の需要が増加したことで売上総利益は大幅に伸張し、戦略的に増加させた販売管理費を吸収して営業利益は前連結会計年度に比べ大幅増益となりました。

ポイント5 親会社株主に帰属する当期純利益

為替予約のデリバティブが時価評価益に転じたことから、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に比べ370.4%増加の1,101百万円となり、過去最高益を更新しました。

株主資本等変動計算書(連結)

当連結会計年度(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	純資産合計
当 期 首 残 高	1,102	1,098	7,441	▲ 64	9,578	285	▲ 20	369	▲ 68	565	10,143
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当			▲ 91		▲ 91						▲ 91
親会社株主に帰属する当期純利益			1,101		1,101						1,101
自 己 株 式 の 取 得				▲ 0	▲ 0						▲ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						13	30	▲ 146	27	▲ 76	▲ 76
当期変動額合計			1,009	▲ 0	1,009	13	30	▲ 146	27	▲ 76	933
当 期 末 残 高	1,102	1,098	8,451	▲ 64	10,588	298	10	222	▲ 41	489	11,077

注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

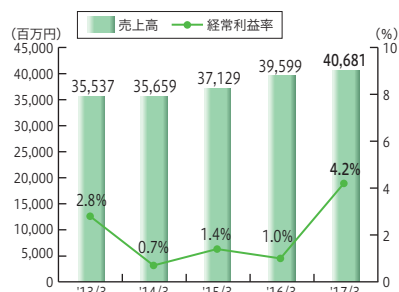
決算のご報告【個別】

目標とする経営指標

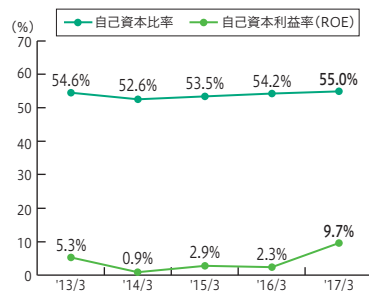
当社は、主な経営指標として売上高、経常利益率、自己資本比率、および自己資本当期利益率を用いております。これら各指標のさらなる向上を目指し、安定配当を継続して行うことができる企業体質の維持・向上に努めてまいります。

2021年3月期を着地点とします長期ビジョン“あじかんV20”においては、売上高の目標を年商500億円、経常利益率の目標を4%以上としております。

■売上高・経常利益率の推移(個別)



■自己資本比率・ROEの推移(個別)



貸借対照表(個別)

(単位:百万円)

科 目	前事業 年度	当事業 年度
	2016年3月31日現在	2017年3月31日現在
流 動 資 産	8,927	9,368
現金及び預金	1,138	1,385
受取手形及び売掛金	4,715	4,893
たな卸資産	2,819	2,636
前払費用	72	72
繰延税金資産	142	144
その他	—	236
固 定 資 産	9,019	10,057
有形固定資産	6,288	7,601
建物及び構築物	1,601	1,636
機械、装置及び運搬具	987	1,257
工具、器具及び備品	246	373
土地	3,371	3,371
リース資産	75	64
建設仮勘定	—	899
無形固定資産	95	67
ソフトウェア	64	42
リース資産	31	24
投資その他の資産	2,634	2,388
投資有価証券	918	934
子会社株式	30	30
出資金	52	111
子会社出資金	759	685
関係会社出資金	271	271
長期前払費用	1	1
保険積立金	264	67
敷金	193	198
長期債権	27	38
その他	144	88
貸倒引当金	▲27	▲38
資 産 合 計	17,947	19,425

(単位:百万円)

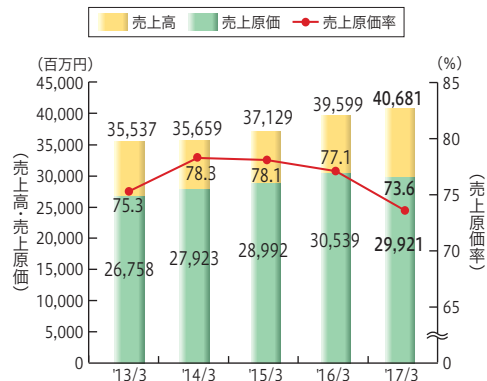
科 目	前事業 年度	当事業 年度
	2016年3月31日現在	2017年3月31日現在
流 動 負 債	6,997	7,842
支払手形・買掛金	2,621	2,747
短期借入金	2,654	2,489
未払金	637	920
未払法人税等	98	469
未払消費税	102	197
未払費用	331	364
賞与引当金	269	284
役員賞与引当金	31	35
リース債務	59	50
その他	190	285
固 定 負 債	1,214	907
長期借入金	561	442
退職給付引当金	106	54
役員退職慰労引当金	390	253
資産除去債務	49	52
リース債務	78	63
繰延税金負債	26	39
その他	1	1
負 債 合 計	8,211	8,750
株 主 資 本	9,470	10,367
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	7,333	8,230
自己株式	▲64	▲64
評価・換算差額等	265	308
その他有価証券評価差額金	285	298
繰延ヘッジ損益	▲20	10
純資産合計	9,735	10,675
負債純資産合計	17,947	19,425

■ 損益計算書 (個別)

(単位:百万円)

科 目	前事業年度	当事業年度
	2015年4月1日～ 2016年3月31日	2016年4月1日～ 2017年3月31日
売 上 高	39,599	40,681
売 上 原 価	30,539	29,921
売 上 総 利 益	9,060	10,760
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	8,646	9,187
営 業 利 益	413	1,572
営 業 外 収 益	413	211
営 業 外 費 用	425	87
経 常 利 益	401	1,695
特 別 利 益	—	6
特 別 損 失	4	224
税 引 前 当 期 純 利 益	396	1,477
法 人 税 等	172	489
当 期 純 利 益	223	987

■ 売上高・売上原価の推移 (個別)



■ 株主資本等変動計算書 (個別)

当事業年度 (2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本								評価・換算差額等			純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 別途 積立金	繰越利益 剰余金 合計							
当 期 首 残 高	1,102	1,098	1,098	200	6,739	393	7,333	▲ 64	9,470	285	▲ 20	265	9,735
当 期 変 動 額													
別途積立金の積立					150	▲150							
剰余金の配当						▲ 91	▲ 91		▲ 91				▲ 91
当期純利益						987	987		987				987
自己株式の取得								▲ 0	▲ 0				▲ 0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										13	30	43	43
当期変動額合計					150	746	896	▲ 0	896	13	30	43	939
当期末残高	1,102	1,098	1,098	200	6,889	1,140	8,230	▲ 64	10,367	298	10	308	10,675

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Outlook 次期の見通し

■ 市場環境の見通し

食品業界における次期の見通しにつきましては、消費者の低価格志向が依然として根強く、デフレ環境からの脱却にはある程度の時間を要するものと思われます。こうした状況の中、当社グループが主力としております中食市場は、比較的堅調に推移するものと見込んでおりますが、為替相場や原材料価格の動向に不安定要素があることや、同業他社との販売・価格競争がさらに激しさを増すなど、引き続き厳しい経営環境となることが予想されます。

■ 販売面の見通し

当社グループは、2021年3月期を着地点とする長期ビジョン“あじかんV20”の基本方針に沿って第10次中期経営計画を策定し、前期よりスタートさせております。

基本戦略としては、国内市場における「継続的需要創造」、中国事業、および海外販売事業の拡大による「グローバル事業の展開」、独創的な商品開発、品質保証の高度化による「ブランド価値の向上」としております。

次期、2018年3月期におきましては、新工場の稼働に向けて国内市場への取り組み強化を図るとともに、組織改革を行い、ヘルスフード事業部、海外事業部、開発本部を設置し、玉子焼類などの基盤製品に加え「ごぼう茶」ならびに関連製品および海外輸出品の売上高のさらなる拡大を図ってまいります。

以上に基づき、次期の売上高は42,200百万円(当連結会計年度比3.1%増加)を見込んでおります。

■ 利益面の見通し

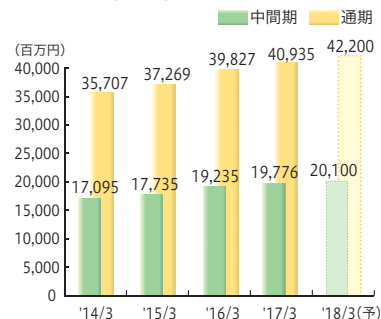
利益面では、新工場の償却負担や諸経費の発生に加え、為替相場や原材料価格の動向など不確実な要素もありますが、経営に必要かつ安定的な営業利益を確保するため、より一層の原価低減活動に加え、経営ロスコストの削減などに注力し、営業利益は1,000百万円(当連結会計年度比38.6%減少)、これに営業外損益を加えた経常利益は1,050百万円(当連結会計年度比41.0%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益は550百万円(当連結会計年度比50.0%減少)をそれぞれ見込んでおります。

また、期末配当金につきましては、為替相場や原材料価格の動向に不安定要素があることや新工場稼働に伴う償却負担、同業他社との価格競争など、厳しい経営環境となる可能性があることから、普通配当で1株当たり12円とさせていただく予定です。

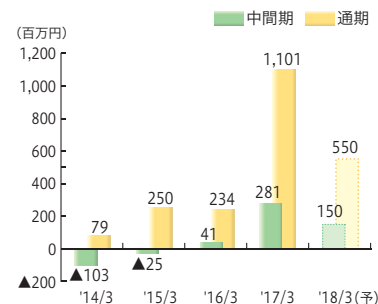


お客さまへ製商品をお届けする配送車

● 売上高(連結)



● 親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



株主優待品

毎年3月末現在の株主名簿に記載された100株以上保有いただいている株主のみなさまに、5月下旬に「自社取扱品の詰め合わせ」をご送付いたします。

ご所有株式数	ご優待内容
100株以上 500株未満	1,000円相当の自社取扱品
500株以上 1,000株未満	2,000円相当の自社取扱品
1,000株以上	3,000円相当の自社取扱品

2017年の株主優待品は、みなさまからいただいたご意見をもとに「自社製品の詰め合わせ」をお送りさせていただきました。

ご贈呈品目は、100株以上500株未満保有いただいている株主の方へ「国産あじかん焙煎ごぼう茶(7包入)」、「国産黒豆ごぼう茶(18包入)」を、500株以上保有いただいている株主の方へは「冷凍厚焼玉子(焼目入)」、「冷凍ロール玉子焼(ネギ入)」、「エビ玉ビーフン」、「炭火焼鶏めしの素」、「たいやき」を、1,000株以上保有いただいている株主の方へは、500以上保有いただいている方への贈呈品目に加え「とろ〜りチーズ入りハンバーグ」を送付させていただきました。



左記のほか、広報誌『膳』(年4回発行)や、毎年9月末現在の株主名簿に記載された100株以上保有株主のみなさまには、『あじかんオリジナルカレンダー』(年1回)をご送付させていただきます。



「あじかん焙煎ごぼう茶、関連製品発売のお知らせ

『国産黒豆ごぼう茶』/18包

- 発 売 日……2016年9月15日
- 希望小売価格……384円/袋(税抜)
- 発 売 地 域……全国
(ドラッグストアなど)

商品特徴

「国産焙煎ごぼう茶」をベースに、ごぼう同様食習慣があり、更年期障害、骨粗しょう症予防などの効果が期待できる大豆イソフラボンを有する「黒大豆」をブレンドした健康茶。全国のドラッグストアなどで販売しております。



『焙煎ごぼう入り国産十八穀米』/15包

- 発 売 日……2016年7月19日
- 希望小売価格……2,200円/袋(税抜)
- 発 売 地 域……全国(通信販売)

商品特徴

バランス良くブレンドした十八穀米に焙煎ごぼうの香ばしい風味と食感・味わいの香り豊かなおいしい雑穀ごはん。原料は全て国産。栄養面&食感の向上を図るため、十八種類のうち九種類は「発芽雑穀」を使用。

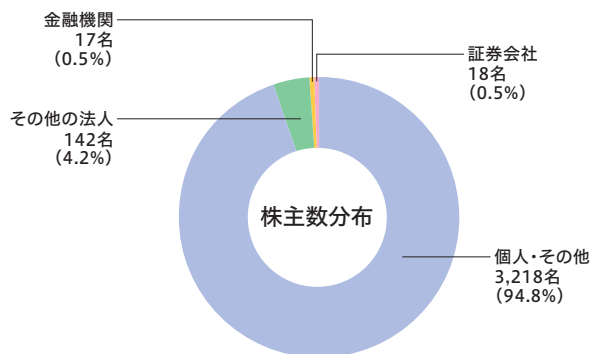


株式の概要

■株式の状況 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	16,000,000株
発行済株式総数	7,700,000株
株主総数	3,395名
上場証券取引所	東証2部
証券コード	2907
単元株式数	100株

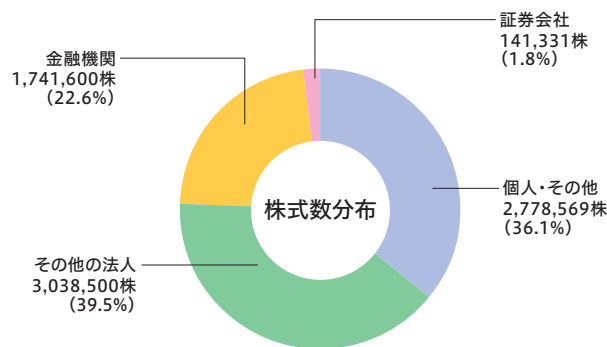
■株式分布状況 (2017年3月31日現在)



■大株主の状況 (2017年3月31日現在)

株主名	株式数(株)	持株比率(%)
株式会社足利興産	1,934,700	25.4
あじかん三栄持株会	664,300	8.7
株式会社広島銀行	363,000	4.8
あじかん株式持株会	290,100	3.8
株式会社山口銀行	214,500	2.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	192,500	2.5
明治安田生命保険相互会社	158,000	2.1
西川ゴム工業株式会社	150,000	2.0
広島海苔株式会社	139,500	1.8
共栄火災海上保険	132,000	1.7

(注)持株比率は、自己株式を控除して算出しております。



■株価の推移

(円) (あじかんの株価・月間売買高の推移)



会社概要

商 号	株式会社あじかん AHJIKAN CO.,LTD.
設 立	1965年(昭和40年)3月19日 (創業 昭和37年)
本 社	広島市西区商工センター 七丁目3番9号
資 本 金	1,102百万円
従 業 員 数	762名(パートを除く)
主要な事業内容	鶏卵加工製品・野菜加工 製品・水産練製品・その他 食品の製造、販売、および 卸売、農産物の生産、販売 を主な事業としており、 取扱品は次のとおりであり ます。

【製 品】 玉子焼、味付かんぴょう、
味付しいたけ、かに風味蒲鉾、
中具、おぼろ、野菜煮物、
ごぼう茶 など

【商 品】 海苔、食用油、生姜、揚げ、
調味料、水産加工品、
調理冷凍食品などの業務用
食品、酒類 など

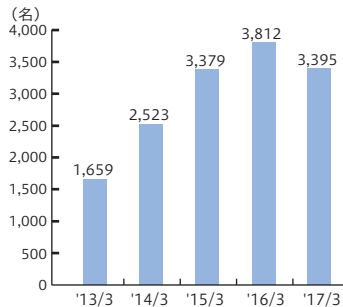
【農産物】 ごぼう など

■役 員 (2017年6月29日現在)

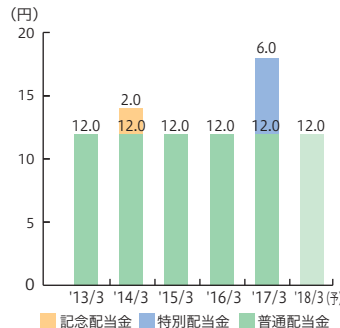
代表取締役会長	中 谷 登
代表取締役社長	足 利 恵 一
専 務 取 締 役	豊 田 太
常 務 取 締 役	松 岡 宣 明
常 務 取 締 役	江 角 知 厚
常 務 取 締 役	樋 口 研 治
取 締 役	玉 井 浩
取 締 役	足 利 直 純
(監 査 等 委 員)	
取 締 役	大 西 知 之
取 締 役	川 平 伴 勅
取 締 役	稲 葉 琢 也

注)取締役 川平伴勅氏および稲葉琢也氏は社外取締役です。

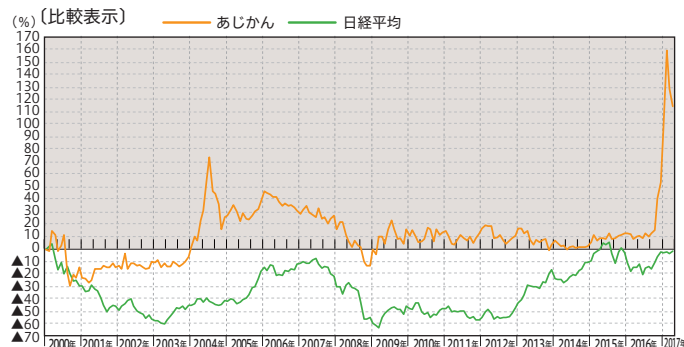
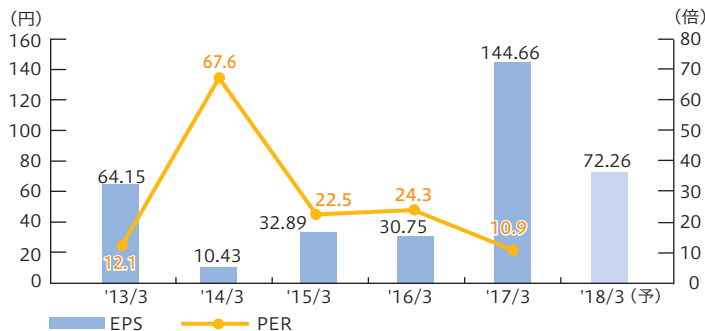
■株主数の推移



■配当金の推移



■1株利益(EPS)と株価収益率(PER)の推移



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日（当期中間配当は未実施）

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行業
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）

上場証券取引所 東証2部

公告の方法 電子公告
（公告掲載URL） <http://www.ahjikan.co.jp>
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載する方法で行います。

【ご注意】

1. 株主さまの住所変更など各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

あじかんグループ企業の紹介

あじかんグループは、鶏卵加工製品、野菜加工製品、水産練製品、その他食品の製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売を主な事業としております。

▶ 株式会社あじかんアグリファーム(子会社)

所在地: 広島市西区商工センター七丁目3番9号
資本金: 30,000千円(当社100%出資)

主な事業内容 農産物の生産、販売、および加工業務など



▶ 山東安吉丸食品有限公司(子会社)

所在地: 中華人民共和国山東省青州市青壁路南段
資本金: 5,354千ドル(当社100%出資)

主な事業内容 農産物の生産および販売

▶ 味堪香港有限公司(子会社)

所在地: 香港灣仔港灣道中30号新鴻基中心
3階301室

資本金: 7,700千香港ドル(当社100%出資)

主な事業内容 酒類・食品の輸出入、卸売

▶ 愛康食品(青島)有限公司(持分法適用関連会社)

所在地: 中華人民共和国山東省萊西市深路東
資本金: 5,036千ドル(当社50%出資)

主な事業内容 寿司用食材や惣菜類などの製造・販売

▶ 味堪(広州)餐飲管理有限公司(孫会社)

所在地: 中華人民共和国広東省广州市越秀区
建設六馬路青菜崗街

資本金: 6,500千人民币(味堪香港有限公司100%出資)

主な事業内容 酒類・食品の輸入、卸売



IRへの取り組み



◀ トップページ

IR・株式情報ページ ▶



当社は、IR（投資家向け広報）の小冊子を発行しており、企業広報誌『膳』と併せてお配りしています。
企業広報誌『膳』、IR小冊子、決算情報はホームページでご紹介しておりますので、是非、ご覧ください。

あじかん
ホームページ



>>> <http://www.ahjikan.co.jp/>